

子どものアンケートに係る委員意見等

設問	意見等	委員	時期	事務局コメント(「→」付は会議中の回答)
5	5の理由は何なのかというところで、本当は人間関係の中にも、親となのか、友達なのか、理由は様々なのかなと思いますので、そういったところが細かく聞けるといいのではないかと。	片山	会議中	→25問聞いてしまうと、スペースはない。設問数は増やせないので細かくは聞けない。
7	「7自分が大切にされていると感じるか」は、設問全文を見ていないのでわかりませんが、「誰から大切にされているか」を明確にするものなのでしょうか。保護者から、との限定なのでしょうか。	古源	終了後	川崎市の項目を参考に、以下のように表現しました。 「あなたは、親や周りの大人から大切にされていると感じますか？」
17	17番嫌な思いをした時の選択肢の「我慢する」も色々問題があると思うので、何故我慢するのかという理由まで聞けるとよい。	片山	会議中	→25問聞いてしまうと、スペースはない。設問数は増やせないので細かくは聞けない。
22 23	No.22,23が他市等にも丸がついていないが、この2つを追加した理由	白井	会議中	→子どもの居場所という議論が別の審議会においても熱心に審議されているので、今回新たに追加したいと考えた。
23	門限の問いは、あきらかに小学生向けで、中学生は皆その他になってしまうため、小学生と中学生は設問を変えた方がよい。	大久保	終了後	設問で意図していたのは、塾や部活等の「埋まっている時間に対する生活状況」ではなく、「ゆたかに生きる権利に結びつく、自由に使える時間の限界時間」＝「家以外の居場所にいられる時間帯」のため、ご意見を踏まえ、以下のように修正します。 「あなたが自由に遊べるのは、何時までですか？」
23	「23あなたの家の門限は」は必要なのかどうか、考えています。当然、対象学年(小、中)によって選択肢の時刻を変えて提示するのかと思います。塾などに通っている子が多い中でバラつきが出るように思います。	古源	終了後	
20	No.20放課後の場所の選択肢は4枠にとられず時抱くと友人の家は居場所としての性格が異なるので分けることが望ましい 児童館・公園・図書館の選択肢もわけるとそれぞれの利用度がわかるのでは 実態調査アンケートは「記念事業の一環」の範疇でとめるか、その他青少年を取り巻くデータとして活用するまで広げるか、によって問いかけが変化する	傍聴者	終了後	外部委託をしている調査ではないので、事務局として処理できる回答数は、マークシート方式の25問までとなります。
24	住んでいる地域の中で、自分のことを知っている大人が何人いるかというような、アンケートも入れて欲しい。地域の状況が変わってきていて、家庭の親以外の大人との関係も気づけているのか、固定化された価値観にしか触れないで大人になることが懸念されている。地域との関係性がどれだけできているか。調査項目に入れられないか。	白井	会議中	→項目数が限られるため、大人と子どもを分けられないが、24で聞きたいと思っている。
24	「学校以外の知り合い」とありますが、ここで大切なことは協議会の場で述べたように、「地域の中に自分のことを認知してくれる第三者の存在」だと思います。ゆえに、学校以外の知り合いの構成だけを聴いても不十分ではないかと考えます。 →問い24:「あなたについて良く知っている家族以外の大人は何人いますか？」 選択肢:「選択肢①.1人もいない」「選択肢②.1～3人程度」「選択肢③.10人以内」「選択肢④.10人以上」	白井	終了後	設問の意図としては、「学校以外に安心できる心の拠り所があるのか」を把握したいと考えました。子どもの世界において、頼りになる大人が存在も大きいですが、例えば塾の友達とは楽しく過ごせる。など、自分らしさを出せる存在は大人ではなく子ども同士の場合もあるのではと考えます。
方法	子どもと保護者に同じ内容をぶつけて比較するのか、子どもだけに取るのか。	志波	会議中	→4500標本を超えるので子どものみを考えている。

設問	意見等	委員	時期	事務局コメント(「→」付は会議中の回答)
方法	目的にオンブズパーソンがあげられていない。権利条例10周年だけなので、そこがわかるような、子どもたちの困りごとを把握するためみたいなことを明記したほうがよいのではないか。実際のアンケート案については、小学生を対象に取れていなかったのであれば重要なアンケートであると思うが、マークシートでは自由記述理由の書き込みが難しいのか。	片山	会議中	→今回のアンケートは、あくまで青少年問題協議会として、子どもの実態を把握するのが目的であり、オンブズパーソン等特定の事業のためではなく、最終的には保護者への意識啓発を考えてのアンケートである。25問聞いてしまうと、スペースはない。設問数は増やせないで細かくは聞けない。
方法	選択肢4に「その他」がある場合、そのすべてに自由筆記が可能なのか、項目を選んでその他について筆記可能とするのか、教えていただきたいと思います。	古源	終了後	その他の場合は、()内への記入を想定しています。
方法	全校でのアンケートは学校に対する負担も大きいと考える。例えば「学校に行きたくない」などの設問で「行きたくない」と答えた生徒については、担任としては早めにフォローをしていきたいと思うので、クラス名と出席番号等を記載する場所を設けてもらって、すぐに児童が特定できるように工夫してもらえないか。匿名性がなくなることで、答えなくなることも考えられるが、全校でという負担をかけるやり方でやるのであれば、当然指導やフォローに役立てたいという意見が教員からでることも考えられる。後からこの回答をした児童を探そうとしても、難しく、指導が遅れる可能性があるため、できれば検討していただきたい。	大熊	会議中	→(市長)学校の現場の教師の意見も重要だと思う。学校長を中心に決めていって欲しい。
その他	「記名式で」という件については、反対です。無記名でお願いいたします。なぜなら、記名式にすると実態が見えてこなくなるリスクが生じるからです。教育長がいわんとすることは理解できますし、子どもたちのことを考えると即座に対応すべきかと存じます。ただし、記名式にすることで、そもそもその回答を控えてしまう可能性があり、気持ちを隠すことで、実態が見えなくなるという危惧です。このアンケートの目的は何か？を考えると、子どもの権利に関する条例が施行して10年が経過し、10年前と現状の変化の比較とともに、どこに課題があるのかを分析するための材料となるはずで、その分析をもって、今後何を注力するべきかを協議していく流れだと認識しています。部会の皆様にあたっては、このアンケートの目的に沿って、アンケートの無記名についてご賛同いただければ幸いです。	白井	終了後	コメントを控え、専門委員会で皆様のご意見を伺います。
その他	協議会の時、教育長から、「学校に行きたくない」という設問に学校で速やかに対応したいので、出席番号とクラス名を記載してほしい、という意見がありました。このアンケートは、絶対に無記名で行うべきです。子ども家庭部の管轄である、青少年問題協議会が責任を持って行うアンケート調査であり、クラス名や出席番号などで特定され、先生にわかる恐れがあるとわかれば、子どもたちは率直な思いを出すことができなくなります。それではアンケート調査の意味がありません。子どもたちからの率直な声は非常に貴重な情報です。このアンケート調査の結果を、子どもたちの支援体制づくりに十分に活かせるように、誰にも個人情報漏れないような安心して回答できる状況のもとでの調査をお願いします。野田市の児童虐待殺人事件の時にも、学校で行ったアンケート調査に子どもが率直に答えた結果を、親の求めにより渡してしまったことから、子どもへの虐待殺人へと繋がってしまった、重い事実を受け止めて、慎重に取り組んでいただきたいと思っています。	片山	終了後	

設問	意見等	委員	時期	事務局コメント(「→」付は会議中の回答)
その他	また明日という子ども食堂で聞いた言葉「小金井市でも一人親家庭はだいぶ増えている。家庭を支えるために、親は仕事に行ってしまう。低学年の場合には、帰ってくるまで食事にありつけない。中学生になると、お金を渡されて自分で買って食べるようになる。」 前回調査で、あなたは朝食や夕食を誰と一緒に食べていますか？という設問があるが、こういう家庭は一緒に食べる時間が夜8時とか10時とかということもありうる。それでも「一緒に食べた」という回答になる。 東京都では子ども食堂の補助を始めたけれども、長期休みの小学生の昼食をどうするかとか、小学生4年生以上のアンケートに反映できるかはわからないが、一人親家庭の子どもの生活状況についてのアンケートを反映でいれば欲しい。できなければ今後青少年問題協議会でも取り扱って欲しい。	板倉	会議中	今回は、前期からの引継ぎがあり、テーマから話しあうことができません。 今回の調査については、特定の施策に関するアンケート調査ではなく、あくまで大局的な小金井市の青少年問題に関する意識調査のため、一般の子どもが子どもの権利をどう感じているのか、そこから見えてくる問題点や認識を審議するために、この調査を本協議会で行うと認識しています。 今後特定のターゲット層に向けたアンケート等実施していくについては、次期への申し送りを含めて、議論いただければと思います。
その他	前回まとめたときに、インターネットSNSと帰宅時に保護者のいない家庭の相関関係がないの？という指摘がありました。今回のアンケートをとっても、非常に有意さが合った場合には、それって何で？ということ、専門委員会では深く突っ込んで議論していただきたいと思う。	福島	終了後	今回の任期については、アンケートを前倒しで行うため、前期に比べて審議期間が長く取れる予定です。
その他	子どもの権利を考えるときに、自分の権利についての認識を深めることはもちろんなのですが、自分と同じように他者にも権利があり、それを尊重するという視点が必要なのかと思います。アンケート自体が周知・啓発の目的も持っているとするなら、他者の権利をどう考えているか、というような内容の設問があったらと思います。	古源	終了後	問題数が増やせないため、この設問を挿入するためには何かの設問を削る必要があります。 設問内容と共に、何を削るかも、議論いただければと思います。
その他	今回の設問の元となっている、比較のための設問等を、専門委員会で配布して欲しい。	古源	終了後	資料として配布します。

参考意見	小学校中学年で不登校になった子どもの保護者からも以下の意見をいただいています。 「出席番号とクラス番号をアンケートに記載するよにこのこと、そんなことをしたら、子どもたちはアンケートに本音を書かないのではないのでしょうか。 もし、子どもが正直にアンケートに回答して、該当の子どもに学校が速やかに対応したら、その対応が原因で子どもは学校に行かなくなる、つまり逆効果になる可能性も想定されます。 昨今の不登校は、学校の先生との関係が原因のケースが増えているというデータもあります。そのような背景を考えて、アンケートを行って欲しいです。 また、学校しか居場所がない子どもも沢山いるでしょう。そういう子どもたちへの対応も考えなければいけないのではないかと思います。」	市民 (片山)	終了後	※以下につきましては、委員ではない方からのご意見ですが、協議会委員のご意見の中に記載があったため「参考意見」として掲載させていただきます。 (委員でない方の氏名については、伏せさせていただきます。)
参考意見	他の市民からは、「10年前のアンケート項目が分からず、目的の1つが制定後との比較であると、的外れかもしれませんが、応える子どもの応えやすさを考えると、場面を分けた方がイメージしやすいのではないかと思います。 家庭、学校、それ以外のそれぞれのシーンについて、各設問への応えを引き出す。 問いは繰り返しになりますが、より具体的な状況が掴める気がします。」というご意見もいただきました。	市民 (片山)	終了後	

設問	意見等	委員	時期	事務局コメント(「→」付は会議中の回答)
<p>参考意見</p>	<p>また、アンケート調査を効果的に活用するためのご意見もいただきました。 子どもの権利条例施行10年を記念して、小金井市の4年生以上の全小中学生を対象にアンケート調査をされると聞いて、すばらしいことだと思います。 子どもの問題で、もっとも深刻なのは、各年代の自殺は減っているのに10代の自殺が減らないことです。自殺対策白書によれば昨年は増えているそうです。 毎年、二学期を迎える9月1日には子どもの自殺者が多く、それを意識するこの時期に準備をされている委員の方たちのご苦勞もお察しします。 背景には何があるのか、何が子どもたちを追い詰めているのか、大人は真剣に考えなくてはならないと思います。 小金井市は比較的落ち着いていると言われ、子どもの問題に気づきにくい面もあるかもしれません。 けれど、子どもたちはほんとうに大人のことをよく見ていて、大人の期待や希望を察知して合わせてしまったり我慢してしまうところがあります。 自殺しないまでも、ジッと耐えている子どもたちがいるはずですよ。 そのことを踏まえた上で、アンケートをとっていただきたいなと思います。 小金井市の特徴としては、文教地区ということで、親御さんや指導者はよかれと思っているかもしれませんが、教育虐待や暴力が心配されるケースがあると思います。 もう少し子ども自身が場面を想像して答えられる項目があるといいなと思います。 何が知りたいのか、結果をどう活かしていくのかがとても気になることです。 アンケートの結果を数字だけでとらえるのではなく、本音を引き出せたいです。 「なぜこういうことを聞いてくれるのだろう」と思う子どももいると思います。 回答は、子どもからのメッセージでもあります。 また、教育委員会・指導室では「いじめ防止条例」が検討されるようですが、そちらでもアンケートをとったり重複したりするようでしたら、むしろ今回必要なことを尋ねていただきたいなと思います。 縦割りではなく、市民も含め、小金井市全体で子どものことをどう見守るのか、子どもたちの声にどう応えていくのか、そういう施策の基盤になるアンケート調査だいいなと思います。</p> <p>最後に、アンケートに答えるタイミングで、自分に起きていることをはっきり自覚して辛くなる子どももいると思います。 別項目で、今、子ども自身が相談できる連絡先を入れてください。 アンケートの集計とは関係なく、SOSを出したい時にアクセスできる情報を伝えてほしいと思います。</p>	<p>市民 (片山)</p>	<p>終了後</p>	
	<p>〇〇議員からはアンケート項目の具体的な改善案をいただいています。わかりやすく、参考になるかと思えます。時間の短い中での検討作業は大変かとは思いますが、ぜひご参考いただくと助かります。 「●「目的」への加筆: 子どもの権利条例制定10年を経過し、その頃どう変わったのか、現在の子どもの実態を把握する。併せて、2021年度の子どもオンブズパーソン設置に向けて、子どもの困り事や悩み事の実態と、それをどのように子どもたちは受け止めて対応しているのかなどの、子どもの実感についても把握する。</p> <p>●今ある「質問」への加筆 Q5: 選択肢1の「人間関係」⇒親、兄弟、先生、友達、その他 Q7: ①家では、自分が大切にされていると感じるか。 ②学校では、自分が大切にされていると感じるか。</p> <p>Q9: 悩みを相談しているか: 選択肢2, 3の「したいけど出来ない」「したいと思わない」 ⇒その理由 (9, 17の選択肢の例・わかってくれないからムダ。・怒られたり、馬鹿にされるから怖い。・大人が忙しい。・大人を困らせたくない。・大人(友達)が嫌いだから。etc)</p> <p>Q17: いやな思いをしたときの対応: 選択肢1に「やめてほしいと言った」 選択肢2の「我慢する」⇒その理由()</p>			

設問	意見等	委員	時期	事務局コメント(「→」付は会議中の回答)
<p>参考意見</p>	<p>●新たな「質問」 Q:あなたにとって、あなたを大切に思ってくれていると思える人は、だれですか。 ○は3つまで。《松本市の調査より》 1. 親2. 兄弟姉妹3. 祖父母 4. 友だち5. 担任の先生6. 保健室の先生 7. クラブ・部活動の顧問の先生8. その他の先生9. インターネットでの相談相手10. 話を聞いてくれる相談窓口11. 大切に思っている人はいない12. その他()</p> <p>Q:あなたは、これまでに、おとなから次のようなことをされて「いやな思い」をしたことがありますか。○はいくつでも《松本市の調査より》 1. 親(保護者ほごしや)から、たたかれる、なぐられる 2. 親(保護者ほごしや)に、心を傷きずつけられる言葉を言われる 3. 親(保護者ほごしや)に、いやらしいことを言われたり、されたりする4. 親(保護者ほごしや)に、自分をほったらかしにされる 5. 学校や幼稚園、保育所、施設しせつの先生や職員から、たたかれる、なぐられる 6. 学校や幼稚園、保育所、施設しせつの先生や職員に、心を傷きずつけられる言葉を言われる 7. 学校や幼稚園、保育所、施設しせつの先生や職員に、いやらしいことを言われたり、されたりする 8. 塾じゅくや習いごとの先生、スポーツクラブの監督かんとくなどから、たたかれる、なぐられる 9. 塾じゅくや習いごとの先生、スポーツクラブの監督かんとくなどに、心を傷きずつけられる言葉を言われる 10. 塾じゅくや習いごとの先生、スポーツクラブの監督かんとくなどに、いやらしいことを言われたり、されたりする 11. 知らないおとなに、声をかけられる、追いかけられる 12. されたことはない 13. その他[1～11以外におとなからされて「いやな思い」をしたことがある場合、だれからどんなことをされたことがいやだったか、書いてください]()</p> <p>Q:あなたは、友だちや先輩せんぱいなどから、次のようなことをされて「いやな思い」をしたことがありますか。《松本市の調査より》 1. 友だちや先輩せんぱいなどから、無視される 2. 友だちや先輩せんぱいなどから、暴力をふるわれる 3. 友だちや先輩せんぱいなどから、インターネットやメールでいじめられる 4. 友だちや先輩せんぱいなどに、心を傷きずつけられる言葉を言われる 5. 友だちや先輩せんぱいなどに、物・金をとられる 6. 友だちや先輩せんぱいなどから、万引きなどいけないことをむりやりさせられる 7. 友だちや先輩せんぱいなどから、はずかしいことをむりやりさせられる 8. されたことはない 9. その他 くわしく書いてください()</p> <p>Q:あなたは、おとなから心や体に苦痛を感じるような扱あつかいを、家庭や学校などで受けたことがありますか。《川西市調査》 1.まったくない。 2.少しある。 3.よくある。 4.わからない。</p> <p>(質問で、2または3と答えた人だけ答えてください。)あなたが受けた苦痛くつうは、あなたにとって次のどれが一番近いですか。 1.生きているのが、とてもつらく思えるほどのくつう苦痛を感じた。 2.上の1ほどでもないが、家にいるのがいやになったり学校に行くのがいやになるほどのくつう苦痛を感じた。 3.上の1や2ほどでもないが、くつう苦痛を感じた。 4.とくべつ特別なくつう苦痛というほどではなく、気持ちとしていやだなあと思った。</p>	<p>議員 (片山)</p>	<p>終了後</p>	